

コミュニティのエンパワメント 震災復興の第一段階としてのキリコまつりと地域の語り

団体名●神崎ゼミナール／代表者名●神崎淳子（経済学部地域システム学科・准教授）

金沢星稜大学経済学部

2024年度神崎ゼミナール

★プロジェクトチーム★

加藤連・山口智也・岩岸優太・奥森みいゆ・

伏田朱里・米田貴広

まつり参加者：基礎専門ゼミナール2年生 18名、

専門ゼミナール3年生 13名、

4年生 5名

1. 活動の要約

今年度は、地域住民のエンパワメントや学生参加者のコミットメントの形成と外部発信に取り組んだ。特に震災以降、地域を離れていたり日常の生活に不便を抱えている人とともに、地域の文化である「祭り」の時間を共有し、地域の再生を考える契機とした。

今年度は、震災により地域から離れてしまった住民が祭りを通じて地域の歴史を感じたり、話をする機会をつくることに取り組んだ。そのため、キリコ運行だけでなく、地域の人が訪れ大学生と交流する「交流室」の運営や、地域の方の住宅を訪問し、地域の歴史やまつりの写真をみせていただきながら、学生が地域生活や現在の課題についてインタビュー形式でお話を伺う「語り」の場づくりをおこなった。

2. 活動の目的

本活動は、震災復興の第一段階として、地域の伝統的なキリコ祭りを通じたコミュニティエンパワメントと、住民の生活や地域課題に関する聞き取りを通じた「語り」の場を創出することを目的とした。地域課題の聞き取りは、今後の復興支援に向けた基礎情報となるだけでなく、地域の生活や祭りに関する経験や歴史を住民自身が語る機会を提供し、地域への愛着を言語化する場ともなる。エンパワメントにおいては、自己の存在を肯定することが重要であり、それが他者に受け止められることによってさらに力となる。このため、本活動では学生が住民から話を聞くインタビュー調査を行い、その内容を地域にフィードバックすることで、外部視点から見た地域の魅力

や課題を共有する取り組みを実施した。

また、震災からの復興に向け、地域住民が宮地地区に住むことを誇りに思えるような活動を展開した。キリコ運行は、長年地域の文化や季節の行事として親しまれてきたもので、住民にとって地域への愛着や継続への葛藤を象徴する行事でもある。この祭りを通じて、地域住民や学生だけでなく、外部からも多くの人が関われる場を作ることを目指した。同地区では高齢化や人口減少が進み、住民だけでのキリコ運行が困難となり、祭りの記憶が薄れつつある。神崎ゼミと「春蘭の里事務局」は2022年から連携し、祭りの歴史や文化を学びつつ、キリコ運行時の笛や太鼓、シャンギリの御雛子の記録映像を撮影するなどの活動を続けている。2023年には学生が実際にキリコの準備や運行、安全管理や声掛けを体験した。このような取り組みを通じて、学生や地域支援者が協力し、キリコ運行を通じたコミュニティのエンパワメントを目指した。

学生はキリコ祭りの準備・運行・記録に携わり、地域文化を体験するとともに、交流室の運営やインタビューを通じて住民の語りを収集し、地域資源や課題を再発見し発信する活動を行った。

3. 活動の内容

3年生ゼミ生、特にプロジェクトチームメンバーを中心に、4月以降、ゼミナール時間にグループ内議論やオンラインミーティングを行い、以下の日程で現地訪問による打ち合わせや活動、調査を行った。現地訪問に諸活動以外にも、インタビュー内容の検討、調査結果のとりまとめ、インタビュー調査、祭り参加の依頼文章の地域内回覧、受け入れ機関との事前打ち合わせ、祭り当日の必要な準備物、宿泊施設など、当日のみの参加学生の受け入れ準備についても確認業務などを行った。

7月20日

まつり等準備活動：受け入れ機関である「春蘭の里」との打ち合わせ、地域へのまつり学生参加の依頼。



9月19日交流サロンの実施：地域住民との交流を行った。(写真上段)



宵祭りにおけるキリコ運行：キリコの準備、祭りの運営、地域外参加者のサポート



9月20日

住民インタビューを実施：地域の生活や歴史、地域資源、課題について住民の「語り」を記録した



10月以降～

記録作成と発信：住民の語りや祭りの様子を写真や文章で記録し、大学内の掲示物として掲示したり、パンフレットを作成して住民に配布する(報告書作成時点では準備中)。

また、住民参加型ワークショップや祭りの記録を大

学ウェブページで発信し、宮地地区を知らないひとにも関心を持って貰えることを意識した情報発信をおこなった。＜参照：成果物＞

4. 活動の成果

コミュニティの絆の強化：住民と学生が共に活動することで、地域内外の連携が強化された。

地域文化の再発見：キリコ祭りを通じて地域資源の価値を再認識する機会となった。

記録の公開：「宮地記録」やウェブコンテンツを作成し、祭りの様子や住民の語りを広く共有することで、地域外からの注目も集めることができた。

＜成果物＞

①金沢星稜大学 HP の記事発表

- ・キリコ運行活動報告
- ・宮地地区の現状と調査内容報告

対象：星稜大学生、保護者、高校生

⇒震災後の生活やまつりに対する地域の人の声を大学 HP で発信し、宮地地区への関心を高めることで地域に対する自信と安心な生活への期待を持ってもらうことを目的とした記事を作成した。

②記録集の作成

対象：住民向け飼料

⇒冊子を作製し宮地地区への配布、地域を訪れ、まつりを体験した学生のコメントや地域でみつけた魅力をまとめた記録集。

③宮地新聞の作成

対象：大学生向け資料

⇒大学構内に掲示し、奥能登地域で発見した内容や奥能登震災のことを忘れて欲しくない、という地域の人の言葉を掲示した。宿泊施設春蘭の里にも掲示。

<成果物>

①金沢星稜大学HPの記事



<成果物>

②記録集の作成



<成果物>

③学生向け「宮地新聞」の作成



5. 今後の活動計画

今後は、以下の活動を展開する予定である：

継続的な記録活動：地域住民の語りや文化的活動を継続的に記録し、保存する。

地域資源を活用した交流イベント：震災復興をテーマとしたワークショップや交流イベントを定期的に開催する。

地域外への発信：作成した記録や成果を発信し、地域の魅力を広く伝えとともに、新たな協力者を募る。地域外にでた人に情報をとどけ地域の復興を考えるためにどのようにすればいいか、地域の祭りを継続的な活動にするための仕組みづくりについて検討する。ゼミナールは人的資源管理を専門としており、自分たちが学んだ内容を祭りに他学生にレクチャーし、参加者のモチベーションづくりやコミットメントの醸成、継続的な仕組みづくりについて検討する。